

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版
2020年度 授業実践事例

芸術（音楽）科 高等学校第I学年

音楽鑑賞を深める—西洋音楽史の学習を基盤にして—
「比較」による音楽の探究

授業者 増井 知世子

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

高等学校 芸術科（音楽） 学習指導案

指導者 増井 知世子

- 日時** 令和2年12月4日（金） 第1限 8:40～9:30
- 場所** 第2音楽教室
- 学年・組** 高等学校1年音楽選択クラス イ組20人（男子10人 女子9人）
*本来イ組は40人であるが、感染防止の面で器楽での楽器割り当てに制限があるため、2グループに分けた授業を行っている。
- 単元** 音楽鑑賞を深める—西洋音楽史の学習を基盤にして—
- 教材** *数字は、本時の学習指導過程と対応している。全曲とも抜粋で聴かせる。
1(1) ヴィヴァルディ「四季」より「夏」第3楽章
1(2) ベートーヴェン「交響曲第6番」第4楽章
1(3) グロフェ「大峡谷」より「豪雨」
2(1) イギリス民謡「夏は来たりぬ」
2(2) パッヘルベル「カノン」
2(3) フランク「ヴァイオリンソナタ」第4楽章
3(1) シェーンベルク「浄められた夜」
3(2) シェーンベルク「ワルソーの生き残り」
- 目標** 1. 西洋音楽史の大まかな流れを理解する。（知識）
2. 西洋音楽史の知識を活用しながら、楽曲を特徴づけている音楽の要素の働きについて考える。（思考・判断）
3. 音楽をより深く楽しむ方法を積極的に探究する。
(学びに向かう力、人間性等)

指導計画（全5時間）

- 第一次 西洋音楽史の概観 3時間
第二次 「比較」による音楽の探究 1時間（本時）
第三次 学習のまとめと意見交流 1時間

授業について

生徒たちに「日常生活でどういう気持ちのときに音楽を聴きたいと思うか」についてアンケートをとったところ，“リラックスしたいとき”“気分転換したいとき”“楽しいとき、気分がハイになっているとき”などの回答が多かった。生徒たちが自分の好む形で音楽を楽しむ姿勢は尊重しつつ、音楽科では、それとは別の音楽の楽しみ方があることに気づかせたい。

西洋音楽史の学習で、生徒たちは、中世・ルネサンスからバロック、古典派、ロマン派、近代、現代と変遷・発達を遂げた音楽とその背景を概観した。対象が高校1年生のため、世界史の学習とリンクする部分もあり、生徒たちは関心をもって学習してきた。

比較するという行為は、対象の特性の理解をより際立たせる有効な手段である。本時では「比較」をキーワードに、時代様式の異なる曲を聴き比べる活動を繰り返し広げていく。この学習を通して、より深い音楽の楽しみ方を発見してほしいと考えている。

題 目 「比較」による音楽の探究

本時の目標

1. 時代様式の異なる曲を、音楽の要素の働きに着目し比較して聴くことを通して、各曲の特徴を理解することができる。(知識、思考・判断)
2. 興味をもって学習に取り組み、活発に意見交流を行う。(学びに向かう力、人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 時代様式の異なる曲を、音楽の要素の働きに着目し比較して聴くことを通して、各曲の特徴を理解しているか。(知識、思考・判断／観察・ワークシート)
2. 興味をもって学習に取り組み、活発に意見交流を行っているか。(主体的に学習に取り組む態度／観察・ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入> 本時の学習課題の把握</p> <p><展開> 1. 同じテーマ「嵐」で時代様式の異なる曲の比較</p> <p>2. 同じ作曲技法「カノン」で時代様式の異なる曲の比較</p> <p>3. 同じ作曲家の、作曲年代で異なる作曲技法の比較</p> <p><まとめ> 学習のまとめと次時の学習課題の確認</p>	<p>・自分たちの日常における音楽聴取とは別の音楽の楽しみ方を探究すること、本時のキーワードは「比較」であることを確認する。</p> <p>・曲 1(1),1(2),1(3)を聴き、それぞれの嵐の感じの違いや共通点を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">比較する</div></p> <p>・まずは各自で考え、グループ→全体で意見交流する。(*)</p> <p>・曲 2(1),2(2),2(3)を聴き、カノンの美しさや面白さを比較する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">繰り返す</div></p> <p>・曲 3(1),3(2)を聴き、各曲の感じや作曲技法の違いについて考える。</p> <p>・本時の学習を通して学んだことをまとめる。音楽を比較して楽しむ視点として、他にもないか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめる</div></p>	<p>・事前に、「どういう気持ちのときに音楽を聴きたいと思うか」についてのアンケートを行っておく。</p> <p>・全体で意見交流した後に、確認のため、再度聴かせる。</p> <p>(*)学習活動の流れは展開1と同じ。</p> <p>(*)学習活動の流れは展開1, 2と同じ。</p> <p>・ワークシート回収後、時間があれば、さらに別の比較の視点もあることを述べる。</p>
<p>備考：教材曲を編集した CD, ワークシート</p>		

「比較」による音楽の探究

1. 「嵐」をテーマにした曲の比較

嵐をテーマにした3つの曲を聴きます。それぞれ、どのような嵐でしょうか。それは、下の囲みの中のどの音楽の要素のはたらきによるものと考えますか。○で囲みなさい。(複数回答可)

1 曲目

嵐の様子

()

音色 (楽器の種類), 強弱, 音型 (リズム), 速さ (テンポ)

音高 (音の高低), 和音 (ハーモニー)

その他 ()

2 曲目

嵐の様子

()

音色 (楽器の種類), 強弱, 音型 (リズム), 速さ (テンポ)

音高 (音の高低), 和音 (ハーモニー)

その他 ()

3 曲目

嵐の様子（ ）

音色（楽器の種類）、強弱、音型（リズム）、速さ（テンポ）

音高（音の高低）、和音（ハーモニー）

その他（ ）

2. 「カノン」の比較

同じ作曲技法「カノン」による3つの曲を聴きます。各カノンの面白さは音楽のどのような点にあるでしょうか。（作曲者はどんな工夫をしているか。）

1 曲目

2 曲目

3 曲目

3. 同じ作曲家の、作曲年代で異なる作曲技法の比較

各曲はそれぞれ、どんな感じがしますか。

1 曲目

()

2 曲目

()

本時の学習を通して学んだことをまとめなさい。

音楽を比較して楽しむ視点は、他にもないだろうか。

I 年 組 番 名前

実践上の留意点

(1) 授業説明

本題目の授業は、「比較する」をキーワードに、時代様式の異なる曲を聴き比べる学習を通して、より深い音楽の楽しみ方を体感することをねらいとした。音楽を時代様式で比較するために、本時までには西洋音楽史を概観した。対象が高校1年生のため、世界史の学習とリンクする部分もあり、生徒たちは関心をもって学習してきた。

本年度の研究大会では、学習指導過程の中に3つのファクターを刺すということで、授業者は〈比較する〉〈繰り返す〉〈まとめる〉をファクターとして学習指導過程を考えた。しかしながら内容を盛り込みすぎてしまったと反省している。学習指導案の展開1の中に比較とその繰り返しを入れる方法も可能ではあった。

(2) 研究協議から

音楽科における生きる力、資質・能力、音楽の要素の出典についてなどの質疑応答がなされた。情報機器を活用して、生徒が聴きたいときに聴くという学習スタイルも考えられるのではないかとという意見に対して、その利点や欠点についても議論がなされた。

指導助言者からは、以下のように総括していただいた。

生徒のグループから最後にどのような「言葉」が出るかに着目していたが、音楽から感受されたものが多く出た。これを音楽の要素へとつなげていくことは大事なプロセスである。このように比較しながら要素に分けていくことは、音楽を分析する、という活動の中で中心的なものになっている。比較の視点を明確にしながら分析的な聴取を行うことが重要である。

本来であれば、音楽を理解する、というものは、本時の内容に加えて、音楽の構造や音楽の背景にある文脈（歴史や地理など）を分析することが大事である。高校の3年間を通して、これらの内容に迫って行って頂きたい。そのためには、他教科との関連性や、音楽の構造的な側面からの分析などが重要になってくるだろう。時代が変われば作曲様式が変わっていく。「時代」は音楽の内容に大きな影響を与えている。楽曲を聴いたときに、どの時代のものなのか、なぜそう思うのかを、音楽的な言葉を使って説明していくことが重要になっていく。そういう意味で生徒の発言を、トレモロ、クレッシェンド…といった音楽的な言葉遣いに翻訳して表現していくことが、高校の段階では重要になってくる。音楽を専門的に学ぶ、という高等教育段階に向けて、高校の音楽ではジェネラルなところから専門的な部分への橋渡しの役割が求められていくと思う。